



## 卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第41期生の皆さん、口腔生命福祉学科第4期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業までの道のりは決して平坦ではなく、苦しいこと、悲しい日、いろいろとあったでしょうが、それらすべてを乗り越えて、卒業の日を迎えるに至る努力を続けてきたことに敬意を表すとともに、心よりお喜び申し上げます。

皆さんは、この春からは歯科臨床研修医、歯科衛生士、行政職、大学院生など、さまざまな道に進みます。進む道は各人で異なるものの、歯科医学、歯科医療、口腔保健、社会福祉に携わり国民の健康の維持・増進に寄与するという諸君たちの目標は同一であると思います。

諸君達の選んだ職業は専門的職業 Profession です。この専門的職業に就く人達には、専門的な一連の知識を持つ、自由裁量に基づいて実践し、自己規制する、個人や社会に対して利他的に奉仕する、専門的知識やスキルを維持・拡大する責任があるとされています (Gruen et al, 2003)。成熟した専門的職業人は「内省し倫理的に行動する」 (Hilton, 2004) スキルが求められています。このスキルは経験年数にかかわらず、社会との契約ともいえるプロフェッショナリズムを育成し、高めるものです。常に内省すること、すなわち自分を振り返ることにより、君たちのスキルは向上していきます。これからの諸君達の努力により社会から始めてプロフェッショナルと認められ、社会か

ら期待されるとともに、自分たちが仕える相手、その職業、そして社会に対して責任を追うこととなります。そのため、医療人には、一層の常日頃の精進が不可欠となります。

今日、卒業の日を迎え、皆さんは社会に羽ばたいていきますが、皆さん方が大学教育で学んだ知識・技能・態度はまだ必要最低限のもので、いわば諸君たちは、今また新たなスタートラインに立ったばかりです。これらは今までに受けた教育だけでは不十分で、生涯を通じた学習、研修によって社会的な地位が得られるものです。諸君たちは共通の目標に向かって、さらなる精進が必要です。自分をさらにスキルアップするための目標を設定して努力してください。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロフェッショナルとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。

諸君達が今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。我々教員は諸君達に対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持って社会に羽ばたいていって下さい。

諸君達の今後の活躍を大いに期待しています。



## ご卒業おめでとうございます

医歯学総合病院副院長(歯科担当) 興 地 隆 史

歯学科第41期生ならびに口腔生命福祉学科第4期生の皆さん、この度のご卒業誠におめでとうございます。学生生活の道のりは山あり谷ありであったかもしれませんが、それらの全てを乗り越え、無事この日を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。皆さんの光り輝く未来に心から祝福を申し上げます。

さて、皆さんには歯科医学や歯科医療、さらには社会福祉、口腔保健といった領域からQOLの維持・増進に貢献するという大きい共通の目標があるかと思えます。その中で、歯学科の皆さんは研修医として、また口腔生命福祉学科の皆さんは歯科衛生士、大学院生、行政職などのさまざまな立場で、社会に羽ばたく新たなスタート地点に身を置いています。新潟大学歯学部で培った知識や技術を礎として、新しい環境の中で、是非とも希望と目標を持って、楽しく充実した日々を過ごし下さい。

一方、これまでの学生生活では多くのハードルを乗り越えていくことを要求されたことと思いますが、実はこれらは皆さんがクリアしやすいように、決められた走路に順序良く整然と並べられています。これに対して社会では、ハードルや走路を自らの力で見だし、乗り越えるための方法を自ら考え実践することが求められます。卒直後の時期は、このような力を身につけるための大変重要な時期といえるでしょう。皆さんの今後には紆余曲折もあろうかと思えますが、自らを信じ地道に努力を重ねれば必ずや素晴らしい未来が拓けることと思えます。

また何よりも、私達の職業には生涯にわたる学習が必要となることを肝に銘じて、プロフェッショナルとしての道程を歩んで頂きたいと思えます。日進月歩の歯科医学や歯科医療の中で、学ぶべきことは無限にあるといっても過言ではありません。是非、貪欲に取り組んで下さい。吸収力が

豊富な今だからこそ、高度職業人として羽ばたくための基礎となる多くの力を速やかに蓄えることが可能です。さらに、現在の厳しい社会情勢の中で数少ない「勝ち組」として成功するためには、このような努力は絶対に必要と言わざるを得ません。幸い、新潟大学歯学部の教育カリキュラムは、臨床実習やPBLを始めとして、単なる知識や技術の詰め込みではなく、皆さんが自分の力で考え、情報収集を行い、整理して自分のものにすることが出来る力を見つけるためのさまざまな配慮がなされたものですので、皆さんには長い生涯学習の道のりを歩み続けるための基礎的な能力がすでに備わっているはずで、それを基に、サクセスストーリーを築き上げて頂けることを心から期待しています。

説教じみた文章となってしまいましたが、私も27年前には皆さんと同じ立場にありました。回想を巡らせるたびに「もう一度あの時間に戻りたい」という思いが湧きあがってきます。できなかったことをやり直したいという後悔の念ももちろんですが、何よりも、自分自身の進歩を実感できる充実した時間であったためです。大学院生として研究の楽しさを学んだこと、臨床の腕が(錯覚であったかもしれませんが)目に見えてあがったこと、社会人かつ医療人としての患者様との接し方が身に付いていったことなど、枚挙に暇がありません。これからこのような時間を過ごすことができる皆さんを本当にうらやましく思います。

最後になりましたが、新潟大学医歯学総合病院は、歯科医師臨床研修を始めとするさまざまな取り組みを通じて、皆さんの臨床スキルアップへの意欲にできる限り応えていきたいと考えています。また、私共が発信する学術情報は、医療従事者として社会に飛び立った方々にも必ずやお役に立てるものと思えます。みなさんの母校として、これからもサポートは惜しまない所存です。

## 卒業にあたって

歯学科6年 梶田健史



新潟大学歯学部歯学科6年のきたです。早いもので入学して6年が経ちもうすぐ卒業を迎えようとしています。入学した当初は6年という期間はとても長いように感じられていたのですが、実際に体験してみると、カリキュラムが充実しており日々時間に追われていたせいかとても早く感じられました。

6年間を振り返ってみると、やはり5年生の後期～6年生の時に体験させて頂いた早期臨床実習がとても印象に残っています。5年生の後期に初めて6年の先輩から自分の担当の患者様を引き継いだときの緊張感を今でも覚えています。はじめの期間は6年の先輩方が診療中についてくれて安心して診療に臨むことができたのですが、1ヶ月が経つころになると1人で診療に臨まなくてはならなくなり、日々不安で一杯一杯でした。

実際に総合診療部で患者様を診療させて頂くようになると、やはり模型相手の今までの実習とは異なり、患者様とコミュニケーションをとりながら、また失敗は絶対に許されないという緊張感の中での診療では、事前に完璧に予習をして診療に臨んでも自分の思う通りに診療が進むことはほとんどなく、挫折することも多々ありました。しかしながら、日々の診療では苦勞し挫折も何回も体験した半面、クラウンやブリッジ、パーシャルデンチャーが完成し、装着したときに患者様の喜ぶ顔を見たときにはその苦勞も飛んでいき、診療させて頂いて本当に良かったという感動も何度も得ることができました。また、何度も挫折した時、その度に周りの同級生達が励ましてくれその存在の大きさを感じました。

総合診療部の患者様方は自分の診療がうまく進まず時間がかかり、必要以上にお待たせして大変ご迷惑をかけてしまった時でも、お怒りになるどころか、「私の為に、長々と診療してくれてありがとうね。」などと励ましてくださり、未熟な私たちの診療を寛容に受けてくださりました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

総合診療部での診療を通じて実際の患者様を診療させて頂くにあたって、診療の手技や知識を得ることができたのも貴重な体験だったと思うのですが、1番貴重な体験だったと思うのは患者様とのコミュニケーションを体験できたことでした。患者様とたわいもない世間話をしたり、診療に関係する話をしたりして少しずつ打ち解けていく過程を体験でき、座学では決して学ぶことこのことのできないことを学べたことは大変貴重な経験だったと思います。

最後になりましたが、お忙しい中1年間面倒をみて頂いた大島先生をはじめ、陰で私たちの中を支えて頂いた藤井先生、ライターとして優しいが時には厳しく指導して頂いた各科のライターの先生方、本当にありがとうございました。

## 卒業にあたって

歯学科6年 吉田夏希



私はこの原稿のテーマをいただいた時は、まだ卒業という実感もあまりなかったので、「そっか、もう卒業かー」と改めて驚いてしまいました。今まで大学を中心とした学生生活が当たり前だったので、それが終わるといのは奇妙な感じです。

6年間を考えたときに、一番印象深いのは最後の一年です。それは決して記憶に新しいからということではなく、他の年と比較して密度が断然濃

かったからです。臨床実習期間中はピンチに陥ることも多々あり、必死に過ごす毎日でしたが、それは大変ありがたい勉強期間でもあったと思います。

5年生のポリクリでは友達相手の相互実習ですら緊張しまくりだったのに、CBT、オスキーに追われた勢いのまま臨床実習がスタートし、毎日不安でいっぱいでした。何が不安かという、患者様との接し方、診療全般のこと、カルテの書き方、……というように何から何まで不安要素となっていました。自分なりに頑張つて予習していても、患者様から予想外の訴えがあったり、初めて目にする病変があったりと、診療は私の浅はかな思惑通りに進むなどということはありません。知識がないってこんなに不安なことなのかと実感してばかりでした。特に私の生活が必死さを増したのは、義歯やCr-Brの技工が始まったときです。診療においてだけではなく、技工に関しても全くぱつとしない私は、ここにはとても書けないような恥ずかしい失敗談が多々あります。

いろいろ大変だと言いつつも、学生技工室は癒しの部屋で、毎日楽しく生活していました。診療に関する情報交換をしたり、技工と格闘している友人を助けたり(邪魔したり?)、クラスの絆が深まったのは確かです。私が落ち込んでいた時に、机に励ましの言葉を書いたメモとお菓子がそつと置かれていた、なんてこともありました。

今思えば反省することばかりでしたが、そんな自分を信頼して通ってくださる患者様には感謝の気持ちでいっぱいです。また、迷惑ばかりかけてしまう私達を、根気強く指導してくださったライターの先生方にも、改めてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。支えてくれる人がいたからこそその臨床実習であり、そのような環境で過ごすことができ幸せであったと思います。総診での一年間というのは、自分のやる気次第で、興味のある分野を深めるなど、どんどん自分の世界を広げていくことが可能な期間であったと思います。私はえらそうなことを言えるような学生ではありませんでしたが、これから臨床実習に挑む後輩にはぜひ、楽な道ばかり選ばずに貪欲に日々を過ごしてほしいと思います。

総診に上がるまでは関わる機会も少なかった先生方と話す機会も増えたので、歯科医師としてどのように生きていくか、臨床実習を今後どうつ

なげていくか、というような話も聞けて、人生勉強にもなりました。実習の終わりが近づいてくると、クラスでもお互いに将来の話をするが増えて、みんな希望にあふれていました。指導してくださった先生方、快く協力してくださった患者様、そして両親をはじめとしてこれまでの学生生活を支えてくださった全ての方々のお気持ちに伝えられるように、これからも努力していきたいと思っています。

## 卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 木村 千亜貴

1週間1週間終わりを噛みしめていた臨床実習。そして、大学に入学してからの4年間。今振り返ると、本当にあつという間でした。何もできない何も分からない私でしたが、2年生から本格的に歯科と福祉を学び、たくさんの人と関わり、多くのことを経験しました。

4年間の学校生活の中で、一番印象に残っていることは何かと聞かれたら、みんなが臨床実習だと答えるのではないかと思う程、長く終わりの見えない実習の毎日でした。その分、終わった時は、達成感に満ち溢れていました。

本格的に病院実習が始まったのは、4年の4月でした。不安でいっぱい、1週間が過ぎ、2週間が過ぎ。毎日が、学ぶことだらけでした。いざ実践となると戸惑うことばかりでした。そんな不甲斐無い私達に、快く教えてくださった診療室の先生方、そして歯科衛生士、看護師のみなさんには本当に感謝しています。木曜日になると、1週間乗り切った喜びを友達と分かち合い、また次の実習が始まります。そんな中で、大変なことや辛いことがあった日は、昼休みなどに友達と話をしました。時には、ケースについて真剣に話し合うこともありました。役に立たない自分にもどかしさを感じながらも、たくさんのことを学んでいき、患者様や先生方に「ありがとう」と声をかけてもらった時は、こちらが感謝をしたくなる程嬉しかったです。

病院実習と並行してあった社会福祉現場実習では、児童相談所と福祉事務所で、2週間ずつ実習をさせていただきました。福祉事務所の実習では、



特別養護老人ホームや地域包括支援センター、重度障害者通所施設などの福祉全般の施設でも、実習をさせていただくことができました。今まで身近に思えていなかった虐待など様々な問題を抱えているケースを目の当たりにしたり、当事者である子どもと接したり、障害者、高齢者の方と接し、戸惑うこともありました。しかし、一人ひとりに誠実に関わっていくことの大切さなどを実感しました。この経験は、その後の病院実習にも生かすことができたのではないかと思います。

また、PBL や全国障害者スポーツ大会のボランティア、幼稚園・小学校・中学校での集団歯科保健指導など、振り返ると本当に多くのことを経験してきました。歯科と福祉を学びながら、人としても成長できたのではないかと思います。

入学する前は、特に気にしていませんでしたが、今では話すときやテレビを見ているときに人の口元を無意識に見てしまうようになりました。これもある意味4年間の成果……なのかなと思っています。

決してつらいことがなかったとは言い切れない4年間でしたが、自分を成長させてくれた、そして大切な友達に出会えた、たくさんの思い出がまった大学生活だったと思います。

## 卒業にあたって

### 口腔生命福祉学科4年 手嶋 謡子

新潟大学に編入学してから早いもので2年が経とうとしています。楽しかったことや辛かったことなど、いろいろありましたが、この度、無事に卒業を迎えられることを嬉しく思います。大学生生活を振り返り、特に印象に残っているのは、社会福祉の現場実習と歯科の臨床実習です。

社会福祉の現場実習は、特別養護老人ホームで約1ヶ月間、実習しました。このホームは、複数の個室と共有スペースからなるユニット型の施設で、私は、「すいせん」というユニットで主に実習し、介護士や生活相談員、ケアマネージャー、機能訓練指導員の方々の業務について見学や体験をさせていただきました。大学の講義では学べない現場ならではの経験をするのができ、毎日かと

ても新鮮でした。介護技術は未熟な為、できることは少なかったですが、食事や入浴介助、レクリエーション、会話などを通して、徐々に利用者の方々との関わりを深めることができました。その中で、どのようなことを思い、考えながら日々の生活を送っているのか。また、個別のニーズについての理解も深めることができました。

利用者数名の方々と一緒に買い物へ行ったときには、あらかじめ購入を決めていた物を選んだり、昼食を一緒にとったりと、楽しい時間を共有することができました。その時の利用者さんの普段見られないような嬉しそうで、生き生きとした様子がとても印象に残っています。

そして、現場では、「利用者本位」の考えに基づき、生活歴や生活習慣、価値観、自己決定などを尊重しながら、多様な視点で情報を収集し、生活全体から問題点や課題を見つけ、援助が行われていました。一人ひとりに合わせた援助を行うことがソーシャルワークの基本であることを改めて学ぶことができました。

この福祉実習では、介護の現場が抱える問題も直に感じることができ、そして、人と接する上で大切なことや、一人ひとりがその人らしく生きるということについて、深く考えさせられました。「すいせん」の皆さんとの出逢いは、私にとって宝物であり、これからも大切にしていきたいと思っています。

次に歯科の臨床実習ですが、中でも摂食・嚥下リハ室での実習は、私にとって初めての経験であり、学ぶことが多くありました。摂食・嚥下障害の診断やアプローチの実際を目の当たりにし、奥が深い分野だと痛感しました。

また、その他に、スケーリングや歯面研磨などを行う機会を多く与えて下さり、経験を積むことができたので良かったと思います。

新潟大学口腔生命福祉学科では、保健・医療と福祉の関係やあり方について深く考え、幅広い視野を育むことに繋がったと感じています。今後、経験してきたことや学んだことを活かしながら、自己研鑽をつづけ、頑張っていきたいと思っています。

最後に、私に学ぶ機会を与え、成長させてくださった方々に感謝しながら、歩いていきたいと思っています。本当にありがとうございました。